

## 私の戦争の記憶

清水口在住 芦田忠和 八五歳

戦争当時、私は小学生で京都府の福知山市に住んでいました。家は米や野菜、蚕を育てる農家でした。京都府と奈良県は仏像や寺など重要なものがたくさんあることから、空襲警報は鳴っても、爆撃は全く受けていません。神戸沖の方から軍港のあった舞鶴まで、高いところをB-29が飛び、飛行機雲を作ったのはよく見ました。機関銃を積んだ戦闘機は低空飛行をし、双眼鏡で下を覗き込んで見ていました。先生にはそんな時は、近くの川に飛び込むか、林の中に逃げろと教えられていました。

私の兄弟は兄が3人、4歳上に姉が1人いました。上の2人の兄は戦争が始まった頃は徴兵制度で軍隊にいました。3番目の兄は中等学校に通っていました。

1番上の兄は自分より17歳上で、昭和16年には除隊し、市役所に勤めていましたが、終戦の半年前に召集され、兵隊として朝鮮に行きました。終戦になり無事に帰国できたので、召集時にお腹にいた子とやっと対面することができました。

2番目の兄は、昭和18年に少尉で除隊し、青年学校の教師となりましたが、おじに呼ばれて大阪の繊維会社に勤めを替え、当時は日本占領下にあったフィリピンに麻の研究のため、移り住みました。戦後に分かったことですが、現地召集を受けて兵隊となり、終戦の1カ月前にフィリピンで戦死していました。位は2階級上がり、大尉になったとのことでした。

3番目の兄は、昭和19年に中等学校を卒業し、4月から市役所に勤めていましたが、6月に召集がきて兵役に就きました。どこに行ったかも分からずにいましたが、終戦の1カ月前に、シナで戦死したという通知が届きました。

村全部で20世帯ほどありましたが、私の兄2人を含め、8人位が戦死しました。学徒出陣で戦地に行った者は、終戦で帰ってきましたが、精神的にも肉体的にも病んでしまっただけで、すぐに亡くなってしまいました。

戦争がなかったら、皆どのようなように生きていたでしょうか。それぞれの国に様々な理由があったかもしれませんが、どんな理由があったとしても、戦争は二度としてはいけません。